

「学び心を起動する」入門科目

寺尾 徹 (大学教育基盤センター共通教育部長)

2022年4月、香川大学は全学共通教育改革を実施した。国立大学法人の第4期中期目標・中期計画期間を迎えると同時に、創造工学部創設や経済学部改革などの完成年次を迎え、カリキュラム改革が可能となるタイミングであり、カリキュラム改革を実施する好機とらえたことがその背景にある。2019年8月から調査研究部に2次にわたるワーキンググループを設置し、教育戦略室との密接な連携のもと、全学共通教育の課題を抽出するとともに、それらを解決するための改革方針を具体化する作業を進めた。改革方針は2021年5月21日に教育研究評議会において承認され、実現に至ったものである(高橋、2022;寺尾、2022;寺尾ら、2022)。

本報告は、今次の改革において特に重点が置かれた入門科目の整理と充実に焦点を当てながら、全学共通教育改革の理念と経緯を簡単に振り返るとともに、2022年度から実施フェーズに入った新しいカリキュラムと科目領域コーディネート制度等の新しい取り組みの実施状況について概観することを主要な任務とする。

1. 全学共通教育改革における入門科目の位置づけ

今次の改革の重要な特徴は、入門科目の位置づけを抜本的に高め、新しい科目区分も加えて充実を図ったところにある。今次の改革は、入門・基礎・応用科目をより明確に示し、学生の学びの道筋を自ら確認できるようにカリキュラム構成を発展させた。入門・基礎・応用の別は、ナンバリングの水準コード上はこれまでも存在していたが、科目区分としては明示されていなかった。特に、新入生の学びの入り口となる入門科目を「学びと生き方科目」として科目区分化し、香川大学共通教育スタンダードとの関連性も明確にした。入門科目を通じて高校までの学びから大学の学びへの転換を果たすとともに、教養教育と専門教育を通じた大学における学びのプランを自覚した自律的な学修者を育成し、カリキュラムの自己決定力をつけることを意図している。

入門科目の改革は、第3期全学共通教育の課題と密接に関連している。第一に、入学早々学問基礎科目や主題科目などの選択に直面させられる学生の意識との間のギャップがあること、すなわち、入門科目が学生目線から見えない体系性の欠如が指摘された。第二に、キャリア教育や地域課題等に対応する第3期までの諸改革の積極的とりくみの一方で、これらの課題のカリキュラム的受け皿となった主題科目が複雑化・複線化するなどの科目群の硬直化も課題として指摘された。主題を改めて統一された趣旨のもとに一本化するとともに、

入門科目においてキャリア教育や地域課題を明確に位置付けて学ぶことができる仕組みを保障する必要があった。

入門科目は従来からの科目区分を再編するとともに新しい科目区分を加え、新しい科目区分「学びと生き方科目」として再構成した。「大学入門ゼミ」・「情報リテラシー」・「健康・スポーツ」の科目区分を改めて入門科目に位置づけなおした。また、広い意味での「キャリア」を主要なテーマとして開講されてきた「主題 A」に地域課題を加えて「ライフデザイン」として位置付けた。そして、特に重要な新科目区分として発足したのが、高校までと異なる大学の学びを実感し、学問の魅力に触れることを目的とする「学問への扉」である。「学問への扉」は「学問基礎科目」や「主題科目」に向かって自律的な学びのプランを立てていく契機として位置付けられているが、あえて必修化せず、科目内容の魅力に対する学生の自覚的な興味関心に基づく受講を推奨した。「学びと生き方科目」は、受講を通じてひととおりの共通教育スタンダードに触れることができ、基礎科目・応用科目に進む中でより深い学びを保障する基盤を作ることを意図している。

基礎科目においても、学際的な「学問基礎科目」の開講を可能とする新たな科目区分「特別・複合領域科目」の新設、主題の一本化と4領域分類の導入、大学として重視すべき課題を導入するための「特別主題」の仕組みの採用をはかっている。

次節以降、2022年4月から開講されたこれら入門科目を中心に、その概要と受講状況等を概観する。同時に、これらの新しいカリキュラムを支援する新しい科目領域コーディネーター制度の立ち上げ等について記述する。

2. 全学共通教育改革における新しい科目区分の開講・受講状況

2-1. 「学び方科目」／「学問への扉」

「学び方科目」に位置づけられた「学問への扉」は、様々なメディアを読む「読むことのすすめ」、大学における研究の方法にふれる「研究のみかた」、大学での学びの幅広さと学問の喜びにふれる「学びへのいざない」の3つのクォーター型の科目群から構成されている。新入生に対する入門的科目であることから、比較的早いクォーターから受講できるよう、第1クォーターから第3クォーターまでそれぞれ9、3、2科目を配置した。これらの多くは新科目であることから、「学問への扉」を紹介するチラシを全新生に配布するとともに、ポスターを活用して受講を呼びかけた。「読むことのすすめ」・「研究のみかた」・「学びへのいざない」の開講科目数と受講者数はそれぞれ、表1に示したとおりである。のべ814名が受講したことになる。次年度にかけて、より詳細な新しい科目の課題や効果、受講生のその後の基礎科目・応用科目の受講動向等について検討を深める必要がある。

表1 「学問への扉」の科目群の開講科目数及び受講者数

▶ 「学問への扉」(クォーター型/非必修1単位)

新生にぴったりの、大学での学びへいざなう入門的な授業科目です。大学の学びの面白さ＝驚嘆や喜びを体感することで、知的な関心をおおきく広げる科目群です。いろいろな学問分野に開かれた視点から、これからの大学の学びの道筋を見通してみませんか？幅広い選択肢の中から自らの学びの道筋に沿って科目を選びとる自己選択力をつけることができます。

▶ 「読むことのすすめ」(2科目/139名)

読むことの楽しさを体験する授業です。読むこととは、学問するときに欠かせない方法の一つです。学術書はもちろんですが、新聞やウェブサイト、場合によってはデータ等、ありとあらゆるメディアを読んで、知的発見を楽しんでください。

▶ 「研究のみかた」(2科目/141名)

研究の方法に触れ、その楽しさを体験する授業です。自然科学の実験、社会科学の調査、人文科学の文献解読等、それぞれの学問領域に欠かせない研究の方法があります。それらの方法に触れ、それぞれの学問領域が持っているものの見方(=研究のみかた)を知り、驚き、楽しんでください。

▶ 「学びへのいざない」(10科目/534名)

大学での学びの幅広さを知り、学問することの喜びを体験する授業です。これまでの自分にはない、新しい考え方を身につけることは、学問することの喜びの一つです。多様な学問領域について学び、そこで感じた喜びをもとに、これからの自分の学びを自分でプロデュースできるようになってください。

表2 「学問への扉」開講科目表

「読むことのすすめ」

講義題目	水準・分野	単位数	期間	曜日校時	担当教員	時間割コード	備考
メディアとなるもの	BIIAR	1	1Q	月5	小坂・大村・柴田(悠)	001101	
本との出会いで広がる世界	BIIAR	1	1Q	金1	蝶	001102	

「研究のみかた」

講義題目	水準・分野	単位数	期間	曜日校時	担当教員	時間割コード	備考
やってみる科学	BIIAR	1	2Q	木5	寺尾(徹)他	001201	
教育の“これまで”と“これから”を考える	BIIAR	1	1Q	木5	岡田(涼)・小方(朋)	001304	グループB

表2は次ページにつづく

開講科目は表2に示したとおりである。「越境する学問 イ」「同 ロ」は、2021年度に「主題B」として試行的に開講した「学びへのいざない」から発展した。かねてより「主題B」として開講されていた「世界の言語と文化」など、少し装いを変えて2022年度より開講した科目もある。

表2 「学問への扉」開講科目表（つづき）

「学びへのいざない」

講義題目	水準・分野	単位数	期間	曜日 校時	担当教員	時間割コード	備考
越境する学問 イ	B1IAR	1	1Q	月1	蝶・高橋(尚)・寺尾(徹)・西本・野村・石井(一)	001301	
越境する学問 ロ	B1IAR	1	1Q	火2	佐藤(慶)・岡田(徹)・三宅(岳)・石井(知)・舟橋・鶴町・横平	001302	
SDGs学入門	B1IAR	1	3Q	木5	寺尾(徹) 他	001311	
デザインのすすめ	B1IAR	1	1Q	火2	井藤・大場・石塚(昭)・釜床 他	001303	グループA
自然科学へのいざない	B1IAR	1	1Q	月5	田中(直)・水田・林(敏)・和田	001305	グループD
国境を超える看護学～ユニバーサルヘルスカバレッジ	B1IAR	1	3Q	火2	清水(裕)・芳我・西村(重)	001306	「国際」 グループE
近代と科学	B1IAR	1	1Q	月5	石井(一)	001307	グループC
世界の言語と文化	B1IAR	1	2Q	月5	寺尾(徹) 他	001308	「国際」
大学的香川ガイド イ	B1IAR	1	1Q	木1	守田 他	001309	
大学的香川ガイド ロ	B1IAR	1	2Q	火2	守田 他	001310	

なお、第3期にかけて「学問基礎科目」の枠内で Semester 型科目として旧「学問への扉」科目として、「書物との出会い」（斎藤ら、2018；西本ら、2020）および「自然科学基礎実験」（高橋ら、2016；鶴町ら、2017, 2018, 2020）が開講されてきた。これら旧「学問への扉」科目の開講は、学問基礎科目の学際的科目の探究として進められてきた重要な取り組みである。この取り組みの一部も2022年度の「学問への扉」科目に受け継がれている。「メディアとなるもの」は上記「書物との出会い」の一つから移行している。また、「やってみる科学」は、上記「自然科学基礎実験」の流れを受け継いでいる。これらの旧「学問への扉」科目は引き続き、「学問基礎科目」の「特別・複合領域科目」に引き継がれている。なお、新科目区分名として「学問への扉」を採用するに当たっては、「自然科学基礎実験」を受講する学生への科目区分名称に関するアンケートを実施し、おおむね好評であることを確認している。

表2の備考欄に「グループA」～「グループE」と示されている科目はそれぞれ、後述の科目領域コーディネイト制度に基づいて新設された5つの科目領域グループの取り組みに基づき、それぞれの努力により提供、開講していただいている科目である。科目領域グループはそれぞれある程度の専門性のまとまりをもった集団であるが、その専門性を基盤に広く分野横断的な興味関心を引き出すことができるような科目を構想していただいている。

研究戦略室とも連携して香川大学としてのSDGsへの取り組みを背景として実施されている「SDGs学入門」や、香川大学教育学部が監修し、3名の教員が編集した著書「大学的香川ガイド」（守田ら、2022）を基盤とする科目「大学的香川ガイド イ」及び「同 ロ」

も新たに開講された。

これらの科目については、いわゆるアクティブ・ラーニング型、あるいは課題発見解決型等の制約は課していない。学問的内容や接近方法に応じて、その魅力を引き出すための形式を自由に設計していただいている。

なお、2021年度以前入学の学生にとっては、「主題 B」として卒業要件単位に数えられるように開講している。

2-2. 「生き方科目」／「ライフデザイン」

「生き方科目」に位置付けられた「ライフデザイン」は、人生や生活を設計するための1単位必修のクォーター型科目である。人間は他者とかわりながら、特定の場所で生きていくほかないこと。それゆえに、人生や生活を設計するためには、自分が社会で果たすべき責任や、実際に生きる地域社会との折り合いについて考える必要がある。こうした認識を背景に、社会において個々人が果たすべき役割について理解を深め、そこから自己や社会の望ましい未来を考えるとともに、地域社会の現状・課題・解決策について学ぶことを通じて、地域の中でいかに生きるべきかを考察する科目である。

21世紀の地域社会において市民として生きるために必要な資質を学ぶ「人生とキャリア」と、地域課題を学ぶ中で地域と積極的にかかわっていく市民としての責任感と倫理観を身に着ける「地域と生きる」の二つの科目群から構成されている。入門科目として、比較的早いクォーターから受講できるよう、第1クォーターから第3クォーターまでそれぞれ14、2、3科目を配置した。旧カリキュラムにおいて「主題 A」として開講されていた科目を中心に「人生とキャリア」を15科目、入門的地域課題を位置づけた「地域と生きる」を3科目開講し、それぞれ1151名、165名が受講した。

開講科目は表3に示したとおりである。旧「主題 A」として開講されてきた科目群を中心に「人生とキャリア」が開講されている。旧「主題 A」の科目群のいくつかにはすでに地域社会の課題が要素として含まれていたが、今次の改革を契機に、いずれも地域で生きる市民としての責任感と倫理観に関する内容を含んでいただくように依頼した。「ワークライフバランスとキャリアデザイン」は教育学系科目領域から提供していただいている。「地域と生きる」にはこれまで「主題 B」として開講されていた科目をもとに開講した「地域をデザインする思考と実践」や、新たにインターナショナル・オフィスとの協力関係を深める中で地域社会とSDGsの結びつきに取り組む科目として開講された「地域社会におけるSDGs達成への取り組み」などの新科目によって構成されている。これらの科目の構想にあたっては、地域教育部が深く関与して検討を深めた。

表3 「ライフデザイン」開講科目表

「人生とキャリア」

講義題目	水準・分野	単位数	期間	曜日 校時	担当教員	時間割コード	備考
想像力の教室	B1LFD	1	1Q	金1	佐藤(慶)	000001	
地方で生きるということを考える	B1LFD	1	1Q	金1	大村	000002	
ライフプランニングから見た金融	B1LFD	1	1Q	木5	三好(秀)	000003	
社会人になるための基礎を学ぶ	B1LFD	1	3Q	火2	竹内(正)	000004	
ワークライフバランスとキャリアデザイン	B1LFD	1	1Q	火1	小方(朋)・片岡(元)	000005	
地域で活躍する職業人に学ぶA	B1LFD	1	1Q	月5	原(瑞)	000006	
地域で活躍する職業人に学ぶB	B1LFD	1	2Q	月5	原(瑞)	000007	
キャリアデザインと自己理解	B1LFD	1	1Q	木1	原(瑞)	000008	
キャリアデザインと対人関係	B1LFD	1	3Q	金2	原(瑞)	000009	
私たち(主権者)と公共・代表	B1LFD	1	1Q	火2	三野・堤	000010	
多様なライフ・キャリアを考える一男女共同参画の視点から	B1LFD	1	1Q	木5	柴田(潤)・黒澤	000011	
D(ダイバーシティ) & I(インクルージョン)入門	B1LFD	1	1Q	木1	柴田(潤)・黒澤	000012	
学ぶ・働く・生きる	B1LFD	1	1Q	木1	小方(直)	000013	
身近な生活における支援を考える	B1LFD	1	3Q	金2	大沼	000014	
人生100年時代の学びと仕事を考える	B1LFD	1	1Q	火1	蝶	000015	

「地域と生きる」

講義題目	水準・分野	単位数	期間	曜日 校時	担当教員	時間割コード	備考
映像から学ぶ香川の歴史と文化、地域の課題	B1LFD	1	1Q	金2	岡田(徹)・西本	000021	
地域社会におけるSDGs達成への取り組み	B1LFD	1	1Q	金2	ロン・高水・塩井・原(直)・和田	000022	「国際」
地域をデザインする思考と実践	B1LFD	1	1Q	火2	西成	000023	

2-3. その他の新しいとりくみ

「学問基礎科目」に、ディシプリン科目には必ずしも含まれない学問分野の意義や面白さを伝えること、あるいは特定のテーマに即して複数の学問分野を横断的に学んでもらうことを目的に、新たに「特別・複合領域科目」を開設できるように制度を変更した。これまでは、あらかじめ定められた「〇〇学」の名前でしか制度上開講できなかったが、新たな区分によって自由な内容の科目の開講が可能となった。旧「学問への扉」科目も多くがこの区分のなかで開講されている。科目ごとの特性に基づき、「文系科目」「理系科目」、およびその両方に数えられる科目として開講することが可能な制度としている。

第3期における諸改革を背景に、「主題科目」は「主題A」～「主題C」、さらに「主題

C」が「講義型科目」と「実践型科目」に分かれていたが、今次の改革により「主題科目」が履修規則および卒業要件表において一本化され、カリキュラム上の自由度も高まった。旧「主題 B」は 6 つに分類されていたが、今次の改革においてより抽象度の高い 4 領域に再編された。これらの 4 領域は、問題領域を精神／ソフトと物質／ハードの次元および、要素／過程とシステムの次元の 4 象限に対応させて分類する方法を採用している。ここには、同時に検討が進められ 2022 年度に同時に発足した学際型の新研究科「創発科学研究科」の検討内容が反映している。

国際課題に関する本学の重要な機関であるインターナショナル・オフィスとの連携を意識的に深め、地域課題と国際課題を SDGs によってつなげる新科目の提供に加え、インターナショナル・オフィスの検討を踏まえて「国際」のタグを新たに開講科目表に明示することとし、国際課題の学生の学びを促す新たな仕組みを設けた。2022 年度は「学問への扉」に 2 科目、「ライフデザイン」に 1 科目、「主題科目」に 11 科目が指定された。2022 年度より、共通教育委員会にインターナショナル・オフィスからの委員の参加を得ている。

2022 年度より、授業方法において一般の授業にはない何らかの新しい試みが含まれる全学共通科目を、上限 10 万円の経費により支援し、30 名下限の定員制限を可能とする「創造的科目支援育成事業」を開始した。少しでも新しい教育的試みを支援できる機会となるように運用を進めていく所存である。

3. 科目領域コーディネート制度の運用状況

第 3 期の大きな課題として、教員の減少や分野の不均衡に伴う科目領域の困難が提起されてきた。教員が不在となったり、人数が少なくなる科目領域が出現したりするなどの困難に対応する必要があった。一方で第 4 期に向かって、DRI 教育や分野横断型授業科目の充実が求められる中で、科目領域の枠を超えた学際的科目の検討の必要性も高まっている。これらの課題に対応するため、第 4 期にむけた全学共通教育改革方針の議論に基づいて採用されたのが、科目領域間の助け合いと学際的科目のコーディネートを進めるための科目領域コーディネート制度と、それに基づく科目領域グループの発足であった。

2022 年度の新カリキュラムに対応するため、2021 年度当初より科目領域グループの活動は開始された。調査研究部のもとに設置、運営している。科目領域選出の共通教育コーディネーターの役割として、科目領域グループの運営活動を明確に位置付け、科目領域の状況の交流や新科目の検討、エフォートの調整等を行う科目領域グループ会議を開催、運営していただいている。各科目領域グループは、専門性の共通性や状況の類似性等を配慮し、表 4 に示される科目領域によって構成した。科目領域間の協力により 1 つ以上の科目を学際的科目区分である「学問への扉」あるいは「特別・複合領域科目」に提供しつつ、グループを構成する科目領域のエフォートを減らし、厳しい状況にある科目領域の負担感を軽減することも意図している。そのための仕組みとして 2022 年度は「ポイント制」の

表4 科目領域グループの構成

グループ	構成する科目領域
グループ A	哲学・倫理学系 / 芸術系 / 言語学系 / 英語系 / 初修外国語系 / 日本語系 / 歴史学系 / 地理学系
グループ B	心理学系 / 社会学系 / 教育学系
グループ C	法学系 / 政治学系 / 経済学系 / 経営学系
グループ D	数学系 / 地球科学系 / 物理学系 / 化学系 / 生物学系 / 統計学系 / 情報科学系
グループ E	医学系 / 看護学系 / 健康・スポーツ系

詳細について議論し、運用を開始している。2022年度に向けた検討においては、各科目領域グループから1つずつ「学問への扉」に提供をしていただくことができた（表2）。

各科目領域グループでの議論を振り返っての筆者の実感を述べる。今回の改革の焦点が新入生の「学び心を起動する」ことを意図した「学問への扉」に当てられていたことは、各科目領域グループを構成する教員の「教え心の起動」につながった。大学における研究・教育活動の魅力を多くのフレッシュな新入生に伝えたいという教員の要求とかみ合うことによって、各科目領域グループの検討が進められ、積極的な授業提案につながった。大学教育基盤センターとしてこれらの教員の積極的な取り組みに深く感謝するとともに、実感を伴う負担軽減のためにも必要な努力を強めたい。また、その効果をいっそう明らかにし、よりよい取り組みに発展させていく必要がある。

4. おわりに

2019年度より検討を進めてきた全学共通教育の改革は、2022年度より実施フェーズに入った。今次の改革は、第3期までの新しい課題への対応や実践を発展させつつ、教員の減少や学生の学びの困難の問題点の解消をはかるものである。特に、入門科目を充実させて自覚的な学修者を育てることに焦点を当てるとともに、科目領域間協力による助け合いと分野横断型教育の充実を進めている。

改革に伴い、「学問への扉」や「ライフデザイン」など、いくつかの新しい科目区分が新設、再編された。これらの科目区分も開講科目数、受講者数ともに順調に機能している。「学問への扉」アンケートにも積極的な意見が広く寄せられてきている。

当面する課題として、新科目区分の効果や受講生の動向を調査することがあげられる。2年目である2023年度は、2022年度の取り組みを基盤に安定的に運用すると同時に、新カリキュラムの効果の検証と課題のあぶり出しが求められている。科目領域間協力による助け合いと分野横断型教育をいっそう効果的に進めていけるよう、2年目のチェックに基

づき必要な修正を図り、新カリキュラムにおける教育をより効果的に進めたい。

今次の改革は、DRI 教育、分野横断型教育、課題探求型教育など、第 4 期中期目標・中期計画実施のための礎として働き始めている。

参考文献

- 守田逸人・平篤志・寺尾徹編（2022）『大学的香川ガイドーこだわりの歩き方ー』昭和堂。
- 西本佳代・佐藤慶太・時岡晴美（2020）「全学共通科目「書物との出会い」の効果検証」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 17 号、83-93 頁。
- 斉藤和也・中谷博幸・佐藤慶太・西本佳代（2018）「全学共通科目「書物との出会い」の本格実施をむかえて」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 15 号、131-145 頁。
- 高橋尚志・鶴町徳昭・岡田宏基・中村丈洋（2016）「文系向け自然科学基礎実験の起ち上げ」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 13 号、105-110 頁。
- 高橋尚志（2022）「新全学共通教育の歴史的な位置づけー新段階の全学共通教育ー」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 19 号、1-4 頁。
- 寺尾徹（2022）「新全学共通教育の経緯と構想理念」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 19 号、5-11 頁。
- 寺尾徹・葛城浩一・佐藤慶太・西本佳代・岡田徹太郎・三宅岳史・徳田雅明・高水徹・高橋明郎・宮崎英一・野村美加（2022）「新カリキュラムの始動へ向けた取り組み」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 19 号、13-31 頁。
- 鶴町徳昭・高橋尚志・寺尾徹・岡田宏基・横平政直・山田佳裕・石井知彦・丸浩一・中村丈洋（2017）「文系学生向け「自然科学基礎実験」の本格実施」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 14 号、131-137 頁。
- 鶴町徳昭・高橋尚志・寺尾徹・岡田宏基・横平政直・山田佳裕・石井知彦・丸浩一・中村丈洋（2018）「文系学生向け「自然科学基礎実験」の 2017 年度途中経過報告」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 15 号、189-195 頁。
- 鶴町徳昭・高橋尚志・寺尾徹・岡田宏基・横平政直・山田佳裕・石井知彦・丸浩一・中村丈洋（2020）「全学共通科目「自然科学基礎実験」の効果検証」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 17 号、95-102 頁。